

2

270

ギゾー氏著
永峰秀樹譯

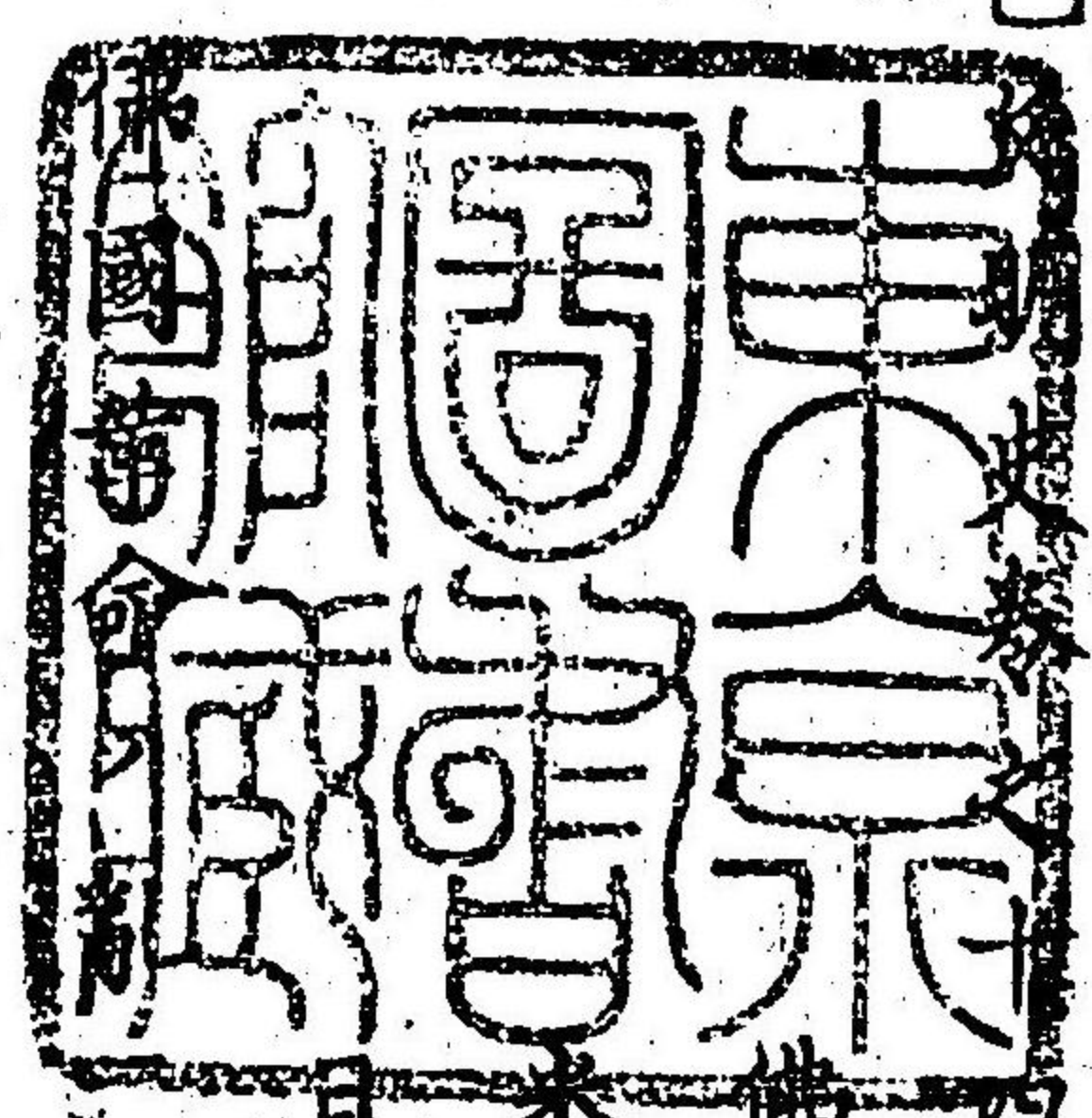
歐羅巴文明史

十四

2
27

明治十三年八月卅日 文部省交付

特 31
069
教育館
物
博
印



佛國 原著
ギゾー氏
水國 譯述
ヘンリー氏
日本 再譯
永峰秀樹

余前編ニ於テ英國改革ノ亂ノ本性及ヒ其政事
上ノ目的ノ歸着点ヲ察知セシメテ勤ノ千五百
年代ニ於テ歐洲文明ノ諸奮元質ノ溶解シテ鑄
成セルニ大カタル王權政自由查察ノ間ニ初メ
テ軌轢ヲ生シ其事端ノ初メテ發シタルハ實ニ

東京教育館

類西史
屬開化
冊十四
函九

第五卷
四

明治廿二年七月一日 文部省交付

東京教育館

英國ニ於テシタルヲ講示セリ然ルニ世ノ學者
ハ此爭擾ノ大陸ト英國トニ其狀ヲ異ニセルヲ
見テ兩地ノ社會ハ根本ヨリシテ相異ナリト謬
信シテ其相異ナル真所ヲ此事擾中ヨリ發覺セ
ント努メ又其位置形狀是ノ如キ邦國ノ間ニハ
比視考察スルモ事物ノ關係ヲ發明スヘキノ因
縁ナキヲ論シテ英民ハ其國狀ノ孤立セルカ如
ク其心意モ亦孤立シテ大陸諸國ト相關係スル
所微ナリト信スル者アリ
英國ノ文化ト大陸諸國ノ文化トノ間ニ緊要ノ

差異アルハ實ニ論者ノ言ノ如シ卿等モ前諸編
ニ於テ既ニ之ヲ知得セル所ナラン英國社會ノ
構成ト大陸諸國ノ社會ノ構成トハ其開達ノ狀
ヲ異ニシ英國ヲ以テ大陸諸國ニ比スレハ社會
構成ノ各種ノ主義元質ハ時ヲ同フシテ並立セ
リ譬ヒ時ヲ同フシテ並立セリト云ハ、較精密
ニ過ルノ語弊アリト云フ者アルモ大陸ノ諸國
ニ比スレハ各種ノ主義元質ハ其開達殆ント同
時ナリト云ハ、誰カ之ヲ非スル者アラシヤ又
前編ニ歐羅巴古時ノ邦國及ヒ亞細亞諸國ノ文

明ト歐羅巴近古ノ文明トヲ比較シタルキニ歐
羅巴近古ノ文明ノ元質ハ其種類多ク且ツ錯綜
多變ニシテ一元質モ未タ嘗テ全勝ヲ得サルヲ
示シ其概状ハ社會ノ諸元質互ヒニ媾和爭戰シ
テ其元形ヲ變化シ來リ遂ニハ互ヒニ他元質ノ
世間ニ確立スヘキノ權利ヲ許允シテ相並立セ
スニハアル可カラサルノ形勢ニ至レルヲ示セ
リ是實ニ歐羅巴文明ノ大状ナリ然リ而メ最モ
此状ノ著明ナルハ英國文明ノ進歩中ニ現スル
事物上ニ在リ英國ノ文明進歩ハ此状ヲ呈スル

最モ著明ニシテ一期限ト雖モ未タ嘗テ諸元質
ノ相並立セサリシヤト疑ヲ入ルヘキノ期限ナ
キナリ英國ニハ神俗ニ社會侯權政、民權政、王權
政、地方及中央ノ兩憲法、心事及世事ノ開明等同
時ニ俱ニ發生シ相並ニテ運動セリ説若其同發
並動ヲシテ事實ニ違フアフト云フモ其發生進
動ニハ稍相前後スルアルノミ未タ其間年ヲ經
ル久長ナル者アラサリキ例ハ純乎タル王權
政ノ運動ニ著名ナル「チエード」朝下ニ於テ人
民ノ氣力ノ表識タル民權政ハ其權カヲ得終ニ

激發シテ千六百年代ノ革命戰トナレリ此爭擾
ハ教政ニ流ノ革命ニ係レリ此間封建政下ノ侯
權政ハ既ニ腐朽セントスルノ徵候アリ其勢力
極メテ微弱トナリシト雖モ仍ホ此爭亂中ニ在
ツテ帝其故位ヲ失ナハサルノミナラス更ニ此
機ニ乘シテ一半ノ利ヲ占領セントスルノ形状
ヲ備ヘタリ英國史乘ノ各時各代ヲ取ツテ之ヲ
觀ルニ其狀皆此ノ如シ英國ニハ古時社會ヲ構
成セルノ諸元質中一元質モ未タ嘗テ全敗セス
又一新元質モ未タ嘗テ全勝ヲ得ス之ヲ要スル

ニ一主義モ未タ嘗テ英國ニ全權ヲ得タル者ア
ラザリキ英國ニハ常ニ各種ノ權力同狀ノ闕明
アリ各種ノ權力間ニハ各互ヒニ其願望ト便利
トヲ商量シテ各他ノ權力ノ為メニ其一分ヲ枉
クテ私和スルノ事起レリ
然ルニ大陸ニ在リテハ文明進歩上ノ變化英國
ヨリモ必ナク又其成功モ劣ナリキ即チ全社會
ヲ構成スルノ諸元質タル神俗ニ社會王權政侯
權政民權政ノ闕達ハ英國ノ並闕俱達スルカ如
クナラスシテ前後相繼テ起リ各主義各政体相

繼テ幾ント其權ヲ專ニセシ時限アリ例ハハ專
 制權ヲ握リ盡セリト云ニハ非サレハ封建政下
 ノ侯權カ偏重ヲ得タル時代アリ王權政ノ時代
 アリ民權政ノ時代アリ試ミニ中古ナル一千年
 代ヨリ同二百年代ニ至ルマテノ佛國史ヲ以テ
 同時代ノ英國史ト對照セヨ當時佛國ニハ封建
 政体主權ヲ把持シ國權ノ偏重ヲ得テ王權民權
 ノ二政体ハ有モ無カ如キノ微弱ニ陷ヰリタリ
 然ルニ當時ノ英國ヲ觀ヨ譬ヒ封建政下ノ侯權
 政ハ偏重ヲ得タリト雖凡王權民權ノ二政体ハ

嚴然トシテ其勢力ト尊重トヲ保持シテ失ナハ
 ス世人女王イリサバツスノ世ニ王權政ノ英國
 ニ勝利ヲ得タルハ一ノ世ニ十四世ノ佛國ニ於
 ルカ如シト云フ者アリ然レハ英國ノ王權政ハ
 何等ノ勤慎ヲ要シタルヤ時トシテハ侯權政時
 トシテハ民權政ノ為メニ若干ノ制限ヲ被フリ
 國王モ枉テ此制限ニ服従セサルヲ得サルノ事
 情アリ敢テ其王權政ヲ擅行スル一佛ノル一
 ス王ノ如キ能ハサリキ英國ニテモ各政体各主
 義ノ其勢力ヲ得タルノ時限アリタレハ未タ大

陸ノ如ク專制擅行ナルヲ得スシテ勝者ハ常ニ
其抗敵者ノ存在ヲ許允シ且ツ之ニ或度ノ權力
ヲ分與セヌンハアルヘカラサルノ制抑ヲ被
レリ
兩地ノ文明進歩上ニ差異アル上ノ如キ者ハ實
ニ兩地ノ利害得失ノ管スル所ナリ彼ノ社會ヲ
構成スル各種ノ元質ノ同時ニ開達セル者ハ實
ニ諸社會ノ目的トスル所タル紀律整然トシテ
且ツ自由ナル政府ヲ建設スル事ニ於テ獨リ英
國ヲシテ大陸ノ諸國ヨリモ速カナラシメタル

ノ助力莫大ナリキ凡ソ其國ノ衆利ヲ保チ其國
ノ衆力ヲ存シ共ニ協同並立シテ盡ク繁榮ナラ
シメントフルハ政府ノ天性ナリ今英國社會ヲ
構成スル各元質ノ專制ト互制トノ關係ハ一ニ
此狀ヲ明示セリ是ヲ以テ英國ニハ紀律較定マ
レルノ大政府ヲ建設スルニ於テ其困難ハ大陸
諸邦ニ比シテ輕小ナルヲ覺フ又英國自由ノ特
質ハ各種ノ利益、各種ノ權利、各種ノ權力、各種ノ
元質、均發均行セル者ナリ故ニ英國ハ其自由
ヲ得ル之ヲ他國ニ比スレハ更ニ深キヲ得タリ

茲理ヨリシテ英ノ國民ハ必ス國事ヲ商量シ公
 利公益ヲ計ルニ義アツテ且ツ智ナルハ他國ニ
 勝レタルヲ判決スヘキナリ夫レ凡ソ政務ヲ
 處分スルノ知識ハ國事ノ性質ヲ知悉シテ以テ
 各事ニ適當ノ職分ヲ任スルニ在リ故ニ英民ノ
 政務ノ知識、他邦ニ秀タル者ハ社會ノ狀勢ヨ
 リ自然ニ傾向セル所ニシテ實ニ文明進歩上自
 然ノ結果ナリキ
 之ニ反シテ大陸諸國ニ於テハ各政体各主義相
 代リテ專制ノ重權ヲ握レルノ度ハ英國ヨリモ

大ナリシヲ以テ從ツテ各主義各政体ノ開達ノ
 度モ亦廣大ニ其事業モ亦更ニ著明ナリキ例ハ
 ハ王權政及ヒ侯權政封建政ノ大陸ニ在ル者ハ
 之ヲ英國ノ二者ニ比スレハ更ニ勇猛ニシテ其
 權限廣ク且ツ縱恣專橫ナリ故ニ個々ニ取テ之
 ヲ論スレハ各政体各主義ハ英國ヨリモ更ニ廣
 大ニシテ備具セリト云フハシ而メ其結果ヲ見
 レハ政意政理政事上ニ關スル國民ノ意志ヲ云
 ノ公益ヲ圖ルカ如キハ更ニ高點ニ達シ廣大ノ勇
 氣ヲ以テ之ヲ施行セリ各政体單獨久シク重權

ヲ握リタルヲ以テ人民ハ其大狀ヲ熟考シテ以テ其本主義ヲ探リ得又其以テ生スヘキ遙遠ノ利害ヲモ推測スルヲ得テ以テ其政体ノ真理ヲ知悉スルヲ得タリ人若シ潛心以テ英國ノ才力如何ンヲ視察セハ必ス二事ヲ發覺セン一邊ニハ英人ハ其着眼善處ニ定マリテ動カス其之ヲ實行スルヤ智略才能ヲ煥發セリ然ルニ一邊ニハ政理ヲ論スルニ至リテ大理ニ疎ク思想高遠ナラス試ミニ英著ノ歴史政學書若クハ其他ヲ繙キ事物ノ道理ヲ論スルヲ見ルニ正大ノ

道理ヲ論明スル者實ニ稀ナリ各事ノ理學別シテ政事學(純乎タル政理ニ関スル論說)ニ至リテハ大陸ノ進步遙カニ英國ニ軼出シ且ツ其見識ノ勇銳ナルモ亦優等ナリ兩國文明進步ノ性質ノ異ナル彼ノ如キ者ハ實ニ是ノ如キ結果ヲ生スル所以ノ一大本ナリシハ敢テ疑ヲ容ルヘキ所ナキナリ上ノ如ク兩地方間ニ生シタル差異上ヨリ生スルノ利害ニ關シテハ其說ヲ異ニスル者アルヘシト雖其差異アルニ至リテハ真正爭フヘカ

ニサハノ實事ニシテ是實ニ英國ト大陸トヲ區
別スル所ノ要点ナリ然ク社會ノ各主義各元質
ハ英國ニ於テ時ヲ同フシテ相共ニ開達シ佛國
ニ於テ前後相繼テ開達セリト雖凡其底極スル
所ヲ檢スレハ其道路其標準同一ナラスト云フ
一能ハス其大狀ヲ觀察スレハ大陸ト英國トハ
文明上ニ同質ノ大變化ヲ經過シ諸事蹟ハ同道
ニ隨フテ進歩ス其進歩ノ道ヲ同フセリ故ニ其
成果亦相同シカリキ其之ヲ証明スヘキハ余カ
曩ニ千五百年代迄ノ文明史ノ講說中卿等ニ指

示セル中ニ於テ既ニ明瞭ナラン卿等又千六百
年代及ヒ同七百年代ノ文明史ヲ學習スルキニ於
テ又均ク之ヲ知得セシ所アラシ自由查察ト純
乎タル王權政トノ開達ハ譬ヒ英國ニテハ殆ン
ト同時ニ成全シ大陸ニテハ二者ノ成全ニハ許
多ノ年時ヲ隔テタリト雖凡二者遂ニ成全スル
ニ至リテハ一ナリ而シテ此ニカ互ニ偏重ノ權
カヲ得タル後遂ニ衝突軋轢ヲ起スニ至レリ之
ヲ卒ルニ社會進歩ノ大狀ヲ論スレハ畢竟大同
小異ナリト云フノ一言ニ過キス近古ノ事蹟ヲ

摘示セハ卿等ノ疑念ヲ解ク更ニ十分ナラン
千六百年代及ヒ千七百年代ノ史乗上ニ眼ヲ注
カハ佛國ノ歐羅巴文明ノ先頭ニ進行セルヲ理
會セサル者ナカラシ

此講説ノ初期ニ於テ余預メ此事ヲ確保シ又其
原因ヲ指示シタリト雖凡此二百年來佛國ノ歐
洲文明ニ先鞭ヲ着シタル更ニ著明ナリ因テ其
光景ヲ左ニ講説セン

純乎タル專制王權政ノ主義ノ「チャールズ」五世及
「フィリップ」二世ノ二王ノ治世中西班牙ニ偏重ヲ得

タルハ「ル」一「井」十四世ノ時此政治純乎タル專制王權ヲ云フ

ノ佛國ニ大權ヲ振、ルヨリモ前日ニ在リ更ニ

又自由查察ヲ見ルニ其佛國ニ開達シタルハ千

七百年代ニシテ英國ニ開達シタルハ千六百年

代ニ於テセリ然リト雖凡純乎王權政体ノ歐洲

ニ凱歌ヲ奏スルハ西英二國ヨリセス此一主義

（即ニ政体）ハ其初發セル國ニ籠居シテ他國ニ進

動スルノ勢力ナシ其能ク境界ヲ廣メテ全歐洲

ニ敷及スルニ至ルニハ必ス其途ヲ佛國ニ取レ

リ純乎王權政体ト自由查察ト、歐洲一般ノ大

事業トナラントスルヤ必ス先ツ佛國ノ政体トナリ
佛國ノ查察トナリタル後ニ非サレハ能シ難キノ事
情アリ佛國文明ノ貫通シ易キ性質ハ古今ニ通シテ
佛民ニ發現セルノ特才特能ナリト雖凡別シテ吾人
ノ將サニ商量セントスル所ノ時限千六七
百年代ニ於
テ最モ著明ナリ然レモ今茲ニ其實証ヲ掲ケス
何者千七百年代ノ佛國ノ文學理學ノ勢力ヲ講
示セル條下ニ於テ既ニ其特才特能ヲ解説シテ
明亮ナリト信スレハナリ即チ卿等定メテ自由
ニ關シテ佛國ノ理學ハ如何ニシテ英國ノ自由

ヨリモ其勢カヲ歐洲ニ有テルカヲ記得セン又
佛國ノ文明ハ他國ノ文明ニ比スレハ更ニ活潑
ニシテ且ツ傳播シ易カリシヲモ記得セン是ヲ
以テ余今茲ニ其實例ヲ舉ルノ煩ヲ避ルナリ余
以下ニ於テ佛國ヲ以テ近古歐洲文明ノ肖像ト
ナシテ以テ余カ講説ヲ簡約ニスルノ便宜ヲ得
ント欲ス然レモ當時佛國ノ文明ト他國ノ文明
トハ之ヲ精察スレハ其殊異決シテ少ナカラサ
ルナリ故ニ若シ吾目的ヲシテ此少差異ヲ精示
スルノ点ニ在ラシメハ其殊異ヲ説明スルハ實

ニ重事ナリトス然レモ之レ少時間ヲ以テハ缺
スヘカラサル事業タリ故ニ全時代ノ諸邦國ヲ
閃過シテ以テ譬ヒ其間ニ小不滿アルモ之ニ関
セス全歐洲文明ノ大勢ノ肖像トシテ佛國ノ文
明ヲ取り其進歩上ニ卿等ノ注意ヲ限制スルヲ
以テ便利ノ法ナリト信ス

千六百年代ト千七百年代トニ於テ佛國ノ權威
ノ歐洲ニ行ハルハ其狀勢ヲ異ニセリ即チ千
六百年代ニ於テ全歐羅巴ヲ感動シテ以テ其文
明ノ先導トナリタル者ハ佛國ノ政府ナリキ千

七百年代ニ於テ歐洲ノ重權ヲ得タル者ハ既ニ
佛國ノ政府ニ非スシテ佛國ノ社會ニ屬セリ其
政府トハルハ十四世及ヒ其臣下ノ執政者
ニシテ佛國ノ社會トハ其全國ノ人民ト其公議
ト云フ茲ニ二者前後相繼テ他ノ歐洲諸國ノ注
視スル所トナリ又其心思ヲ支配スル所トナレ
リ千六百年代事物ノ進動上ニ於テ其事業ノ佛
國ヨリモ更ニ廣大ナル者アリ即チ三十年戰ノ
日耳曼人ニ於ル英國革命戰ノ英吉利人ニ於ル
カ如キハ其境界中ニ在リテ大事ヲ行為シタル

ハ當時佛蘭西人カ其境界中ニ施行シタル者ヨ
リモ更ニ廣大ナリキ又千七百年代ニ至リテモ
亦佛國政府ヨリモ強盛ニシテ他國ノ尊重ヲ得
タル者アリ即チ當時普ノ「レ」二世墳ノ
「マ」リ「ア」セ「レ」サ「女」五ノ敏捷ニシテ歐洲ニ其重權ヲ
得タルハ豈佛ノ「コ」一「井」ス十五世ノ比ナランヤ
然ルニ此二時代ニ當リテモ佛國ハ仍ホ歐羅巴
文明ノ首長タルヲ失ナハス其初時千六百年代ニ在
テハ執政ノ手ニ出テ、政府ノ業ナリ其後時七千
代百年ニ在テハ佛人ノ心智ノ鮮發ニ出テ、佛國

人民ノ業ナリ是ヲ以テ歐洲文明ノ肖像タル佛
國ノ路上ニ發現スル大勢力ヲ了解シテ以テ歐
洲文明ノ進歩中ノ大勢力ヲ了解セント欲セハ
須ク千六百年代ノ佛政府ヲ精察シ千七百年代
ノ佛國ノ社會ヲ精察セシムル可カラズ蓋
シ時序推移シ其戲臺ト俳優トノ變更スルニ從
テ吾人看客タル者モ亦其位置ヲ移シ且ツ其看
法ヲモ變セサルヲ得サレハナリ
世ノ「ル」一「井」ス十四世ノ政府ヲ論シ其歐洲ニ重
權ヲ擅ニシタルノ原因ヲ論スル者ハ概シテ王

ノ威嚴戰勝華美ト當時佛國ノ文學トヲ以テ要
 点トナシ專ラ其原因ヲ外觀上ニ取レリ
 余カ意ヲ以テ論スレハ佛政府ノ重權ヲ得タル
 所以ハ其本ヲ取ル更ニ深高ニシテ上ノ如キノ
 皮想ヲ以テ察知スヘキ者ニアラス彼ノ威嚴戰
 勝饗宴ト詞藻トノ如キハ王及ヒ其政府ノ重權
 ヲ得タル所以ノ大本ニ非スト信ス
 卿等佛國ノ「コンシユ」ル政府十七百九十九年ニ
 設立シタル政府ニ
 シテ三人ノ「コンシユ」ヲ以テ其首長トシ在職ニ
 年ヲ限リトス初世「ナポレ」ンハ第一位ノ「コ」シ
 シルハ二十九年何事ヲカ生シ又此政府ノ設

立セル所以ノ形状ヲ目撃セル者過半ニシテ一
 人モ之ヲ傳聞セサル者ナカラシ此時ニ及ンテ
 外ニ在テハ外敵四方ヨリ逼リ連戰連敗シ内ニ
 在テハ租税ノ徵スヘキナク綱紀盡ク壞レ土崩
 瓦解ノ勢アリ之ヲ略言スレハ人民挫敗屈伏シ
 テ邦國タルヘキハ状ナシ是レ「コンシユ」ル政府
 ノ初メテ建設セル時ノ國勢ナリ誰カ此政府非
 常有効ノ勉カヲ記得セサル者アラシヤ誰カ此
 政府非常有効ノ勉カヲ以テ國家ノ獨立ヲ維持
 シ國譽ヲ恢復シ政法ヲ再興シ紀綱ヲ再張シテ

以テ全社會ニ新生機ヲ與ヘタルノ恩惠ヲ記得
セサル者アラント
上條諸君ノ目撃若クハ耳聞セルカ如キ、事業
ハ往日ル^ルル^ル井^ス十四世ノ初年ニ於テ嘗テ起リ
タル者ト頓ル其状ヲ同フセリ此二事ハ時序ヲ
異ニシ作法状態ヲ殊ニセリト雖モ其結果ヲ見
レハ其奏功ハ殆ト一ナリ
卿等須クカルダナル^ルリ^ルチ^ルル^ル氏政ヲ為ス、後
ル^ル井^ス十四世幼時、佛國危急ノ状ヲ回想セ
ヨ西班牙軍ハ常ニ境界ヲ侵擾シ或ハ内地ニ侵

入シ居常外侵ノ懼レアリ内亂頻發シ紀綱衰頹
シ其政府ハ弱クシテ内外ノ侮辱スル所トナレ
リ世間未タ嘗テカルダナル^ルヤガリ^ル十四世幼
時、宰相ノ政術ノ如ク不幸ヲ極メ外侮内欺ヲ受ケ
タル者アラス概言スレハ佛國當時ノ社會ハ其
性質ノ猛烈ナルハ其度ヲ減シタリト雖モ革命
曆ノ第二月十八日佛國千七百年代ノ未革命ノ
時曆法ヲ一変シテ新曆ヲ用
ヒタリ故ニ是^ノ以前吾人カ親ク目撃セル所ノ
革命曆ト新^ス以前吾人カ親ク目撃セル所ノ
者ト其大状ヲ同フセリ彼ノル^ル井^ス十四世ハ
能ク是ノ如キ危急ノ中ヨリ佛國ヲ救フタリ此

王初年ノ勝利ハ初世「カボレ」ニ「カ」カ「レン」ゴ「ノ」
戰勝ト其功相敵ス此二戰ハ實ニ佛國ノ境界ヲ
固定シ且ツ國譽ヲ恢復シタルノ戰ナリ今將ニ
戰事外交内治立法ノ諸項中ノ諸狀ヨリシテ「ル」
一「井」ス「十四」世ノ政府ヲ精察セントス其精察中
卿等定メテ吾カ上ニ對説セル二事ノ同狀ヲ呈
シタルノ架空ノ論ナラヌシテ一々其本原ノ存
スルアルヲ發見セン凡ク其本原ヲ探偵シ得ル
十分ナル能ハスシテ妄リニ更乘中類似ノ事蹟
ヲ對比スル者ハ無益ノ事タリ然レモ此二事ノ

如キハ其本原ヲ一ニス故ニ取ツテ之ヲ對比ス
ル者ナリ

先第一ニ「ル」一「井」ス「十四」世ノ戰事ニ関スル者ヨ
リ講シ起サン余レ前諸編ニモ屢々講示セルカ
如ク歐洲ノ戰事ハ其初メ全民ヲ舉テ移轉スル
ノ種族間ニ起レル者ナリキ而シテ其ヲシテ移轉
セシムルノ原因ハ或ハ飢寒ニ因リ或ハ無形ノ
想像ニ因リ或ハ他事ニ因リタル者ニシテ皆各
其事情ニ應シテ其望ヲ果サントスルノ目的ニ
出ナタル者ナリ是十二百年代ノ米十字軍ノ末

期ニ至ルマテ歐洲戦争ノ大状ナリ
是ニ續キテ戦争ノ一種新タニ發セリ然レモ
古ノ戦争トハ全ク其状ヲ異ニセリ此戦争ハ遠
征シテ以テ邦國財貨ヲ貪ラント其頭領タル者
自カラ軍ヲ將ヒテ出征シタル者ニシテ邦國間
ノ戦争ニ非ス斯ク此種ノ軍兵ハ其自國ヲ棄テ
、或ハ日耳曼或ハ伊太利或ハ亞非利加ヲ侵犯
セリ千四百年代ヨリ千五百年代ノ初年ニ至ル
迄ノ戦争ハ大率皆此類ナリ彼ノ「チャールズ」ハ
世ノ「フィリップ」國ヲ略取セント出征セシハ佛

國ノ為メニ何等ノ利益アリヤ將タ佛國(即佛民)
ハ何等ノ意思ヲ懷キシヤ其實ヲ案スレハ毫モ
國事ニ關スル者ナラス此王ハ其身ニ「フィッ
」國ノ王位ヲ継クヘキノ權利アリトシテ之ヲ
要求スルニ止マリ特ニ國王一身ノ私事ニ出テ
自國ノ利益ヲ圖ルノ政略ニ出タル者ニ非ス然
ルニ此王ハ其私望ヲ遂ケンカ為メニ遠ク「フィ
」國ヲ略取セント出軍セルナリ「フィッ
」國ヲ略取スルモ毫モ佛國ノ便利ヲ増スヘカ
ラサルノミナラス却テ王ハ之カ為メニ外ニハ

其身ヲ危フシ内ニハ難治ニ困メリ日耳曼帝「
ヤールス」五世ノ千五百三十五年亞非利加ノ遠
征モ亦此戰類ニ屬ス此類ノ戰爭ハ瑞典王「
ル」十二世ノ千六百年代ノ末ヨリ千七百年
代ノ初メニ魯西並ニ攻撃シタルヲ以テ終トス
「
」一非「
」十四世ノ戰爭ニ至テハ上ト其類ヲ異
ニシ紀綱備ハレル政府ノ戰爭ナリ其政府ヲハ
其邦國ノ中央ニ固定セシメナカラ其境界ヲ四
方ニ廣ケ其領地ヲシテ更ニ堅固ナラシメント
スルノ戰爭ニシテ其戰爭ハ政略ニ出テタリ然

ク政略ニ出テタリト雖モ其戰爭ニハ正アリ不
正アリ又其利ハ以テ其害ヲ償フニ足ラサルア
ラン又之ヲ道義ヨリ論スレハ非難スヘキ点モ
多カラシ然レモ之ヲ前代ノ諸戰爭ニ比スレハ
戰爭ノ正法ニ合フタル者ニシテ其戰爭ハ無根
ノ想像ニ因ラス專ラ政略ニ出テ、其目的ハ天
然ノ境界ヲ定メ同語ノ人種ノ能ク合並スヘキ
者ハ是ヲ合並シテ一王國トナサントシ又隣敵
ヲ防禦スルニ肝要ナルノ地ヲ兼并セントスル
ニ在リタリ其間一分ノ自個功名ノ私慾ヲ挾メ

ルヤ必セリ然レモ試ニヨリ井十四世ノ諸事
戰別シテ其初年ノ諸事戰ヲ見ハ其意思ハ實ニ
政戰ニ在リ佛國ノ安固強盛ヲ目的トセルヲ發
明スルアラシク

其事ノ真ナルハ左ノ成果ヲ以テ證スヘキナリ
目今佛蘭西國ハヨリ井十四世ノ戰功ノ惠ヲ
受ル者多ナリ此王ノ略取セルフランシユムテ
レフランシユガルズアルサズ等ノ諸州ハ猶今ニ佛
國ニ屬ス凡ソ略取ニ合理アリ不合理アリヨリ
井十四世ノ略取ハ合理ノ略取ナリ王ノ計謀

ハ往時ノ計謀ノ如ク無道貪婪ノ性質ヲ含マナ
ルナリ其權謀ハ必ス正道ニ合シ能ク謹慎ナル
ヲ保スヘカラスサルモ勇ニシテ且ツ巧ナルハ敢
テ疑ヲ容レサル所ナリ次ニルヨリ井十四世ノ
外交ノ状ハ如何ント查察スルニ又同状ヲ呈セ
リ既ニ前編ニ千四百年代ノホニ於テ外交術ノ
起原セルヲ示シ又往時ハ偶發希有ノ事ニシテ
忽チ跡ヲ歛メタル政府間及ヒ邦國間ノ交際モ
此時ニ至リ章程モ確定シテ永續ノ事トナリ公
衆ニ大利ヲ付與スルノ操ハ如何ナリシヤヲモ

講セリ之ヲ約言スレハ千四百年代ノ末ヨリ千
五百五十年頃迄ニ於テ外交術ハ事物ノ進動中
ニ何等ノ要地ヲ占領シタルヤヲ卿等ノ為メニ
説示セリ然レテ外交術ニ嚴然タル体裁ヲ備ヘタ
ルハ千六百年代ヨリス是ヨリ先ニハ外交術ノ
進歩ノ度未タ長ク盟約ヲ保續シ大連結ヲ構成
スルニ足ラス別シテ定理ニ隨ヒ目的ヲ一定シ
之ヲ永續セシメントスルノ氣象ヲ以テ連結ス
ルノ度ニ達セス連結ノ能ク是ノ如キ性質ヲ得
ヘキハ實ニ固定政府間ニノミ發スヘキ者ナリ

教門改革ノ進動中ニハ外國交際ハ大抵教門ノ
利害ニ因テ離合シテプロテスタント新カゾ教盟
リツ舊教盟ノニ教盟ヲ以テ全洲ヲ二分セリ
外交術ノ性質ヲ一變シテ教事ノ關係ヲ去タル
ハ千六百年代ル一井区十四世ノ力ニ因ル此王
ノ外交術ハ教義ノ勢力ヲ脫離シテ其感動ヲ被
ラス同盟連結ノ主義ハ其出處ヲ異ニシ兼テ其
仲裁法則モ備ハリ其目的トスル所モ永久不変
ノ主義ニ從フ事ヲ得タリ歐洲ニ於テ均權ノ制
度ノ初メテ邦國間ニ行ハレタルモ當時ナリ外

交術ノ重要ナルヲ知リ闔歐洲ノ政術皆之ヲ以
テ要点トスルニ歸向セルハ實ニル^レ一^レ非^レ十四
世ノ政略中ニ屬セリ吾人試ニ是事ニ関シテ^ル
一^レ非^レ十四世ノ政略ノ大柝ハ何物ナルヤト查
察スルニ其成果ハ左ノ如クナラン
前編ニ王權ヲ以テ闔歐洲普通ノ政体トシテ之
ヲ建立スニト要スル^ル一^レ非^レ十四世ノ純乎王
權政体ト後日英王^{ウヰル}ラ^ム三世トナリタル^ル
レ^ニジ^レ公^{ウヰル}ラ^ムヲ頭首トシテ政教ノ自由^ノ邦
國ノ獨立ヲ謀ル党與トノ間ニ大爭端ヲ開キタ

ル^レト^テ説キタリ卿等因テ當時ノ歐洲ノ大事ハ
此二党與ノ旌旗ノ下ニ歐洲諸國ヲ二分セルニ
在ル^レト^テ知得セリ其本性ヲ解剖スレハ上ノ如
クナレ^レ其本性ハ深ク埋藏シテ當時未タ之ヲ
了解スル者ナク身親カラ此大事ヲ舉行ヤシ人
ト雖^レ自^カラ之ヲ為シテ自^カラ之ヲ知ラサリ
キ彼ノ純乎王權政体ヲ制伏シテ政教ニ事ノ自
由ヲ貴重セルノ事業ノ發セル原因ハ單ニ和蘭
及ヒ其同盟國ガ^ル一^レ非^レ十四世ニ抗敵セント
スルヨリ發セルノ結果ナルノミ故ニ當時ニ在

ツテハ專制權ト自由トノ論題ハ議論ノ本意タ
 ラサリシナリ世人ハ一井区十四世ノ外交術ノ
 本意ハ專制權ヲ四方ニ廣敷セントスルニ在ル
 ヲ説ク者多シト雖凡余ハ之ヲ信スル能ハス其
 專制權ヲ廣敷セント欲セシハ此王老年ノ政略
 ナリ此王ノ目的ハ國威佛ヲ歐洲ニ轟カシテ敵
 國ヲ制伏セントスルニ在リ畢竟自國ノ利益ト
 權カトニ着眼セル者ナリ其西班牙、日耳曼帝及
 英吉利ト相爭フヤ常ニ其目的トスル所ハ此
 点ヲ離レサリキ此王ノ念願ハ專制權ヲ廣敷セ

ンヨリモ寧ロ佛國ト佛政府トノ強大ヲ致サン
 一ニ深切ナリ其之ヲ證スヘキ者若干アリ其中
 一井区十四世ノ手簿中ノ數語ヲ引テ其一證
 トセン即チ

今朝英國ノ一紳士シドニ「君ト會ス君余ニ語
 ルニ英國ニ共和黨ノ勃興スヘキ氣焰アルヲ以
 テシ之ヲ扶助センカ為メ四十萬ポンドヲ余ニ
 乞ヘリ余君ニ許スニ二十萬ポンドヲ以テセン
 一ヲ告ヤリ然ルニ君ハ同シク英紳士ナルヲ以
 トロ」ヲ瑞士國ヨリ招キ致シテ此事ヲ商議セ

ンヲ強請セリ
又上ト殆ト時日ヲ同フセル「ユドロ」氏ノ手記
中ニ左ノ一片ノ文章ヲ得タリ即チ佛國政府ヨ
リ書ヲ送リ余ヲ巴理府ニ迎ヘテ以テ我カ國ノ
為メニ大事ヲ議セントス然レモ余此政府ノ詐
謀アラント疑フト
是故ニ「ユドロ」氏ハ瑞士國ニ止マリ佛國ニ赴
カサリシナリ
是ニ因テ之ヲ觀レハ「ル」井「十四世」ノ當時ノ
目的トスル所ハ英國ノ權カヲ削ラントスルニ

在ルヲ知ルヘキナリ故ニ此王ハ英國ノ内乱ヲ
煽動シ共和党ヲ扶助シテ以テ「チャール」二世
カ權カヲ其國中ニ得ヘキノ道ヲ塞カントセリ
又「ル」佛人「ロ」氏ノ英國使節中ノ處置ハ盡ク此
意ヲ俾スル著明ナリ即チ「チャール」二世ノ權
カ増長シ民權党ノ權カ痿微不振ノ状アルアレ
ハ輒チ「ル」氏其カヲ此間ニ用ヒ民權党ノ
首長ニ多金ヲ支給シテ以テ佛國ノ爭衡者英王
「ル」二世ヲ弱メント專制權ヲ攻撃スル「二」盡
カセリ吾人潛心シテ以テ「ル」井「十四世」ノ外

交ノ處分ヲ視察スレハ必ス常ニ其事業ノ標点
ハ此所ニ歸着スルヲ發見スヘキナリ
吾人又當時佛國ニハ外交者ニ良器多ク敏才ニ
富メルニ驚ケリ「トルシ」^ト「ダグ」^ト及「ボ」^ト「レポ」^ト
ハ最モ此術ニ名アリ吾人「ル」^ト「キ」^ト「十四世ノ諸
大臣ノ機敏、締約術、及ヒ處事ノ練磨、ヲ以テ西班
牙、葡萄牙、及日耳曼ノ外交ニ關スル諸大臣ノ機
敏、締約術、及ヒ處事ノ練磨ト比視スルニ佛使ハ
其事務ニ通達スルノミナラス尚ホ其思想ノ自
由ナルハ前諸國ノ使臣ニ超過セリ一個專制君

主^ル「ル」^ト「キ」^ト「十四世ノ朝臣ノ諸ノ外事ヲ處シ諸ノ党
與ノ是非ヲ判シ諸ノ求自由党ニ接スルノ方法
ハ當時二三ノ英國朝臣ヲ除カハ遠ク之ヨリモ
優等ナリキ故ニ和蘭ヲ除カハ千六百年代ニ於
テ佛國ノ外交術ニ及フ者アラス政教自由ノ首
長タル「ジョ」^ト「ド」^ト「ウ」^ト「ツ」^ト及「オ」^ト「レ」^ト「ン」^ト「ジ」^ト「公」^ト「ウ」^ト「ル」^ト「レ」^ト
ノ使節ハ唯獨リ專制大王タル佛王「ル」^ト「キ」^ト「十四
世ノ臣下ト外交術ノ權衡ヲ爭フハキノ智略
ヲ備ハタルアルノミ
吾人一邊ニハ「ル」^ト「キ」^ト「十四世ノ戰狀ヲ視一邊

ニハ其外交術ヲ察スルニ其成果ハ同一点ニ歸着セリ上状ヨリ推究セハ其戰事外事ヲ處分スル是ノ如キ政府ハ必然歐洲ニ確立シテ權威強盛ナルノミナラス更ニ智略出群四方ヲ踰令スハキノ形勢アルハ容易ニ知得スハキナラスヤ今更ニ查究ノ方向ヲ轉シテ眼ヲ佛國ノ内事ニ注キル一井区十四世ノ立法行政ノ如何ヲ講セシ茲ニ至リテ吾人其政府ノ強盛ニ新状ヲ現スルヲ發見セン

備テ一國政府ノ行政ト言ハ、何ヲ以テ其精意

義ト為スヤト問ハ、之ヲ決スル一難キナリ然レハ其精意義ヲ定メントスルニ當リテ世間普通ノ意義ヲ用ヒハ行政トハ成ルヘク丈ケ敏捷着實ニ中央權ノ意志ヲ全社會ニ周子ク通曉セシメ又敏捷着實ニ社會ノ權カヲ中央權ニ集聚スル方法材料ヲ總稱スルノ語ナリ而シテ其社會ノ權カヲ中央ニ集聚スルトハ若クハ人ヲ集メ若クハ金ヲ聚ムルヲ云フナリ若シ吾カ意見ニ誤リナクハ是實ニ世間ニ通用スル所ノ行政ノ真ノ目的ナリ上理ヨリシテ世形紊亂瓦解

セル者ヲ整頓結合セントスルニハ此行政法ハ
別シテ必用ノ器タルヲ明知スヘキナリ是實ニ
ル一井ス十四世ノ行政ノ實状ナリ茲時ニ至ル
迄ハ佛國及ヒ其他歐洲諸國ニテ至難事トシテ
焦慮スル所ハ中央權ノ意ヲシテ社會ニ冷子ク
達シ社會ノ保有セルカヲ集メテ中央權ノ掌裡
ニ致スノ術ニ在リタリキ是實ニル一井ス十四
世ノ熱望スル所ニシテ其希望ヲ遂ケタルノ度
ハ前代政府ノ能ク比較スヘキ者ニ非ス余今是
ヲ細示スル能ハス故ニ唯其行政上ニ屬スル所

ノ租税道路勸業兵制及其他行政ニ屬スル者ノ
諸建設等ヲ觀ルニ其初設ヲル一井ス十四世ニ
取ラサル者ハ必ス此王治國中ニ改良シテ以テ
其理ヲ明晰ニセシヲ知ルヘキナリ是ノ如キ大
事業ヲ實行シテ其大才ヲ顯ハシタルハ當時ノ
大人タルコルベルト及ル一ウラ等ノ功業ナリ
歐洲諸國未々行政ノ正法ヲ得ザルノ時ニ當ツ
テル一井ス王ノ政府ノ獨リ能ク巧利明決ニシ
テ堅實ナルヲ得タル者ハ其能ク上ノ如キヲ以
テナリ

國史文庫
卷之十四

之ヲ其立法ニ見ルモ亦均クル一井十四世ノ
政府ノ器量ハ諸國ニ優ナリ此編ノ初メニ於テ
ノ如ク此政府ノ立法ヲ以テコシユラル政府
前ニ網紀ヲ整正恢復スルニ於テ用ヒタル非
出クノ銳意敏捷ト對比スル所アラントスル一井
十四世ノ治下ニモ又同種ノ勤敏アリタリキ
此王ノ制定布達セル一大律グレイト、アルジナ
ンシス、稱スル者ハ分ツテ刑法、民法、商法、海軍
法、山澤法トナシ其大要ハ目今ニ行ハル、吾人
ノ法律ト其歸着點ヲ同フセリ而シテ其制定ノ

總裁ハ一時ヲモ非ノ、臣民之ニ任シタリ當時ノ
智士學士ノ此事ニ從事シタルユ因リテ名譽ヲ
得タル者多シ、ツソルト君モ其一人ナリキ若
シ吾人特ニ其制定セル法律ヲ取ツテ之ヲ議ス
レハ非難ス、キ箇條少ナカラス其誤謬ハ著大
ニシテ其無疵ヲ批論スル能ハス其之ヲ制定セ
ルヤ真ニ公平ト自由トヲ以テ其精神ト為ス者
ニ非シテ特ニ國家ノ治安ヲ保チ國法ヲシテ安
固一定ナラシメン、トヲ其主意トセル者ナリ譬
ヒ其法律ハ法律ノ真意ヲ失ナヒタリ、此單ニ國

文庫文庫
卷之十四
二十七

家ノ治安ヲ致シ國法ニ安固一定ヲ得セシメタ
ルノミニシテ立法ノ進歩ハ極メテ大ナリト云
フハシロ一キハ十四世ノ立法ハ甚々往時ノ立
法ニ超過シ佛國社會ノ文明進歩ニ大功アリタ
ルハ吾カ敢テ保證スル所ナリ
之ヲ右ヨリシ之ヲ左ヨリシ又之ヲ前後ヨリシ
テ此政府ヲ精察スルニ何レモ一見シテ則チ其
權威勢力ヲ得ルノ材料ニ富實セルヲ發明スハ
キナリ此政府ハ内國ニ之ト其權衡ヲ爭フノ敵
者ナク其州郡ハ靜穩ニシテ不平ノ徒ナク政府

ハ只之ヲ管治スル方法ノ利不利ニ注意スルノ
ミニシテ政府ノ地位ハ安固ヲ得タリ此種ノ政
府ノ歐人ノ眼中ニ射入シ来レルハロ一井ス十
四世ヲ以テ鼻祖トス是時ニ至ル迄歐洲ノ諸政
府ハ外ニ爭戰ヲ常トシ安固間暇ヲ得ルニ違ナ
ク内ニ党與仇敵間斷ナク政府ノ存立ヲ維持ス
ルハ特ニ干戈ニ依頼セリロ一井ハ十四世ノ政
府ニ至リ初メテ其權力固定進歩ノ勢ヲ得テ真
個政府タルハキノ事務ニ之レ從事シ其圖謀ス
ル所ハ行政ノ便宜ノミニシテ危懼ノ憂慮ナク

新事ノ發動ヲ以テ政府ノ憂トセス蓋シ此政府
ハ將來ノ為ニ圖謀スレハナリ真ニル一井区十
四世ノ政府ノ如ク新事ヲ興起セル者ハ稀ナリ
此王權政府ヲ以テ同性質ノ政府タル西班牙ノ
ヒリツプニ世ノ純乎王權政ト比較セヨヒリツ
プノ政府ハル一井区ノ政府ヨリモ其專制ノ度
ハ大ナリシト雖其綱紀立チ平安ヲ致スニ至
ツテハル一井区ニ及ハサラシニアラスヤ試ミ
ニヒリツプノ西班牙國ニ其專制權ヲ固定セン
ト取用シタル政術ヲ見ヨ活潑ノ氣力ヲ要スヘ

キ者ハ數ヲ盡シテ之ヲ壓抑シ開化進步ヲ輔翼
スヘキ者ハ一切之ヲ禁止シ終ニ西班牙國ヲシ
テ佇立シテ進動ナキノ國形トナラシメタリル
一井区十四世ノ政治ハ之ト及シテ新事ヲ獎勵
シ文學技術ヨリシテ百事富厚ヲ得ヘキノ道ヲ
開達シ都テ邦國ノ文明ヲ進歩セシムヘキ事物
ニ盡カセリ上ノ諸狀ハ實ニル一井区十四世ノ
政府ノ歐洲ニ重權ヲ行ヘル大本ナリ千六百年
代其權力ノ歐洲大陸ニ行ハル、ヤ特ニ諸政府
ノ規矩トナリテ諸君主上ニ行ハル、ノミナラ

ス更ニ邦國一般ノ繩墨トスル所トナレリ其權
 カノ行ハル、豈盛大ナリシニアラスヤ
 斯ク盛大固立セル權カノ忽チ朽枯不振ノ状ヲ
 呈シタルハ何故ソヤ斯ク歐洲ニ重權ヲ占有セ
 ル權カノ次ノ百年代即千七
百年代ニ至リテ虛弱ニ陥
 井リ他國ノ侮辱ヲ被リシハ何故ソヤトハ每次
 發スル所ノ疑問ニシテ此疑問ハ實ニ避ク可ラ
 サル者タリ實ニ千六百年代ニハ歐羅巴文明ノ
 頭目タリシ佛蘭西政府ハ千七百年代ニ至リテ
 其勢カヲ失ヒタリ而シテ其地位ヲ領シ歐

洲文明進步ノ嚮導タリシ者ハ既ニ佛政府ニ非
 ス佛政府ヨリ分離シ來リ時トシテハ之カ仇敵
 タリシ佛國ノ社會ナリキ
 吾人茲ニ至リ專制權ニハ必ス脫離スヘカヲサ
 ル不正ノ本性ヲ會ミ因テ不利ノ結果ヲ生スヘ
 キヲ發覺シタリ余今ルル井ル十四世ノ政府
 ノ小過失ヲ條擧セス特ニ其重大ナル者ヲ略示
 セン吾カ所謂ル大過失トハ西班牙繼位ノ戰ニ
 モ非スナリテ發令ノ廢止ニモ非ス又費用重
 大ニシテ府庫ノ空乏セルカ如キ此政府ノ失策

ニモ非スシテ其大過失ハ却テ余カ前ニ講説シ
タル此政府ノ功勳中ニ含蓄モタリ凡ソ專制政
府ニシテ當時ノ人望ヲ得タル此政府ニ及ク者
ナク又自國ハ勿論廣ク聞歐洲ノ文明進歩上ニ
真正ノ裨補アリタルモ又此政府ニ及ク者ナシ
トス然リ而メ此政府ノ斯ク倏忽間ニ痿微不振
ニ陥キリタル者ハ專ラ其取用セル道義ノ專制
權ナルニ歸因セリロー一井十四世ノ時ニ於テ
佛國ニ欠典トスル所ハ憲法ト參權人民ノ政事
トアトナリ此二者ハ實ニ獨立不羈ヲ得ヘキノ

資料ニシテ人民ノ因テ以テ行止ニ自由ノ得テ
壓抑ニ抵抗スヘキノ器械ナリ特載スルノ程度
ニ達シ得サリシト雖凡其僅カニ存在セル古時
佛國ノ憲法ハロー一井十四世ノ為ニ廢滅サレ
テ跡ナキモ此王ハ更ニ新憲法ヲ設立シテ以テ
之ニ代ルノ事ヲ為サス若シ憲法ヲ制定セハ自
カラ之カ為ノニ束縛サル、ノ恐レテナリ此王
ハ其束縛ヲ甘受スルヲ欲セナリシナリ故ニ當
時盛大ヲ現出セルハ全ク中央權ノ縱意專行ニ
因レリロー一井十四世ノ政府ノ建築ハ光輝赫

灼トシテ一時ニ眩耀セリ然リ而シテ其基礎ヲ
問ヘハ花鋼石上ニ於テセシテ沙泥ノ上ニ於
テセリ其顛覆ノ迅疾ナルハ敢テ怪ムニ足ラサ
ルナリ彼ノ自由憲法ナル者ハ特ニ政府ヲシテ
顧慮ニル所アラシムルノモナラス却ツテ其安
固持續ヲ得ヘキノ保護者タリ何政体ヲ論セス
憲法ナクシテ永固ヲ得ル能ハス專制權ノ能ク
永固ヲ得ル者ハ洋ノ東西ヲ論セス必ス其國ニ
憲法アリテ之カ基礎トナリ支柱トナルアレハ
ナリ其憲法ノ狀ハ多變ニシテ或ハ社會ノ門地

ニ明界ヲ立テ、相侵犯スルヲ禁スル者アリ或
ハ教門ノ憲法ヲ取用スル者アリルニ於テ十四
世ノ時代ノ如キハ君主人民共ニ憲法ヲ必用ト
スルノ時代ナリ然ルニ當時佛國ニ憲法ノ影迹
メモ見ル能ハサリシカ故ニ國民ハ政府ノ暴行
ヲ拒クニ名ナシ政府モ亦時勢ノ激動ヲ禁スル
ニ由ナカリキ故ニ余ハ謂フク此政府ハ自カラ
其衰頹ヲ醸成セリトルニ於テ十四世ノ末年ハ
特ニ此王ノ老衰セルノミニアラス千七百十二
年ニ及ニテハ其專制權ノ全体モ王ノ身ト共ニ

老衰ニ純乎王權政体ノ氣息奄々たりルニ非ス
十四世ハ其人民ノ政治ニ暗練スヘキノ道ヲ塞
キ又其憲法ヲ廢セルヲ以テ其害是ノ如ク重大
トナレル者ナリ凡ソ人民ノ政治ニ暗練スヘキ
ハ其能ク獨立ヲ保有スル所アルヲ以テナリ凡
ソ人自カラ其剛毅ナルヲ自信スルアリテ後能
ク若クハ為政者ヲ補翼シ若クハ為政者ト爭抗
スルヲ得ヘキノ剛強不屈ノ性質ハ獨立ノ有
無ト共ニ生滅シ自由高尚ノ精神ハ權利ノ安危
共ニ興廢ス

余左ニルニ非ス十四世ノ殂後佛ノ國狀ト其政
府ノ權カトノ如何ンヲ講示ヒン王ノ殂スルニ
當ツテ社會ハ富厚強實ノ道大ニ進歩シ各種才
智ヲ要スルノ事業ハ大ニ解達セリ是ノ如ク駸
々乎文明ニ趨クノ社會ノ中ニ在ツテ其政府ハ
靜立シテ以テ人民ノ進動ニ適合スヘキノ資材
ヲ具備スルヲナシ其盛大ヲ極メタル後未メ五
十年ヲ過キサルニ政府ハ既ニ不動虛弱ニシテ
早ク其起立者^{ルニ非ス}四世ヲ云フノ生時ニ於テ瓦解分
裂ノ狀ヲ現セリ是レ則チ千六百年代ノ末ノ佛

國ノ形勢ニシテ次ノ百年代ニハ其方向性質兩
ツナカラ相異ナル彼カ如キヲ致セル所以ナリ
今改メテ茲ニ人心ノ大進動ト自由查察ノ精神
トハ千七百年代ノ大事件タルヲ講説セサルモ
可ナラン卿等既ニ前編ノ講説ニモ之ヲ聽ク數
回ニシテ又他ノ理論家ノ説ニモ聽キ得テ十分
ナラン當時成全セル大叛乱ノ諸大事ヲ講示ス
ルカ如キハ僅カニ餘レノ短時間ヲ以テハ能
スヘキノ業ナラス然リト雖ヒ茲ニ世人ノ注意
不十分ナル大事數件アリテ存セリ是レ實ニ默

過スヘキ者ニ非ス因テ之ヲ左ニ講説セン
其第一ニ思想上ニ現出シ来ル者ハ余カ前ニモ
講示セルカ如ク千七百年代ニ於テ政府ト云フ
者ハ既ニ全ク眼界ニ残り留マラスシテ事物ノ
進動ハ都テ公衆ノ心思上ニ屬シタルニ在リシ
ヨアズ「氏」ル「井」十五世ニ相タリシ時外交
ノ諸事ヲ除キ又公論ノ為メニ動カサレテ亞米
利加戰ニ従事シタルノ一事ヲ除カハ當時佛國
政府ノ如ク鈍痿不動ノ政府アルヲ見ス往日ハ
鋭敏ニシテ大望アリ世間百般ノ事物ノ先導タ

リシ「ル」井「十四」世ノ政府ヲ繼承セル千七百
年代ノ佛政府ハ特ニ其地位ヲ失ナハン「テ」ノ
ミ之レ恐懼シ專ラ危害ヲ避シトスルヲ目的ト
シ只管天下ノ注目スル所トナラン「テ」恐レタ
リ此際ニ當リテ能ク大權カヲ把持シテ以テ萬
事萬物ニ關涉セン者ハ實ニ佛國即チ佛國ノ人
民ナリ而シテ佛民ノ權カハ權カノ心思ニ屬ス
ル者ナリ權カノ心思ニ屬スル者ハ獨リ權カノ
真正ナル者ナリ
其第二ニ吾人ノ思想上ニ現出シ來ル者ハ千七

百年代ノ人心ハ一般ニ自由查察ノ氣カノ充溢
セルニ在リ是ヨリ先キ就中千五百年代ニハ自
由查察ノ境界ハ狭小ナリキ其目的トスル所ハ
若シ教義ニ關セザレハ必ス政教二者ヲ合シタ
ル問題ノミニシテ其希望スル所茲二者ヲ出テ
タル者ナカシニ千七百年代ニ至リテハ自由
查察ノ境界ハ更ニ廣大トナリ百事是カ查察ヲ
施サ、ル所ナク教門、政事ヨリ推理、交際、倫理、物
理等ノ諸學ニ至ル迄一時ニ推究、疑問、講學ノ主
意トナリ古學衰滅シテ新學興起セリ其之ヲ刺

衝作興スル所、本原ハ同一ナリト雖、其進動ハ萬事ニ洊滿透入セサル所ナシ加之此進動ハ一種ノ特性ヲ具ハタリ此特性タルヤ特ニ推理測度ニ止マレリ之レ未タ嘗テ他時ノ史乘ニ見サル所ノ者ナリ往日ノ變動ト雖、其大ナル者ハ必ス其中ニ推理測度ヲ會マサル者稀ナリ故ニ千五百年代ノ教門改革モ其本ヲ純乎タル推理測度ニ取タリ然ト雖、凡忽チ之カ為メニ許多ノ紛争ヲ生シ昨日ノ思想党ノ首長タリシ者ハ今日ノ政事党ノ首長トナリ世事

ハ心事ト相混セリ千六百年代英國ノ革命乱モ亦同状ヲ呈シタリ千七百年代佛國ニテノ推理測度ハ事物トシテ其查察ヲ施サ、ル所ナク其查察ハ自然生計ノ真利害ト相關スル親密ナルヨリシテ事物上ニ感動ヲ起ス最モ迅速ナラサルヲ得サリシト雖、凡斯ク事物ノ是非ヲ查察シテ人民ヲ鼓動スル者ハ純乎タル推測ニノミ屬ノ身自カラ其是トスル所ヲ興起シ非トスル所ヲ廢滅セント之ヲ舉行實施スルノ人ニ非スシテ單ニ事蹟ノ行動ヲ傍觀シテ之ヲ是非スルノ

國史記 卷之十四
ミ敢テ身ヲ以テ之ヲ實施シタルナカリキ古
來實行ノ政府ト思察ノ政府トノ區域ノ頌然ト
相分レタル當時ノ如キ者アルヲ聞カス又心世
二事ノ真正ニ分離セルヲ千七百年代ノ如ク著
明ナル者ハ赤々嘗テ歐洲ノ他事ニ生セサリシ
所ナリ當時初テ心事ノ世界ハ全ク世事ノ世界
ト相分レテ自カラ解發セリ之レ實ニ一個ノ大
事ニシテ事物ノ動止上ニ大カラ有シタル者ナ
リ心世界一度世々界ト分離シタルヨリシテ怪
ムヘキノ倨傲心ヲ懷キテ時勢ヲ商量スルニ極

ノテ拙トナリタリ理學ノ世權ニ熱心ナル此ノ
如キ者又理學ノ圖謀ノ失錯スル此ノ如キ者ハ
古來未タ嘗テ見聞セサル所ノ者ナリ然リト雖
凡心智ノ進動ハ久シク鬱屈スル能ハス終ニ實
事ノ激發ヲ醸生セリ既ニ其分離スルノ蘄然トシ
テ其境界互ヒニ定マリタリケレハ其相會セン
トスルヤ難シ故ニ其衝突彼ノ如ク激烈ナリキ
又千七百年代ノ人心ノ勇氣ノ其極處ニ達シタ
ルハ敢テ驚クヘキ者ナラス是ヨリ先キニハ仮
令人心活潑廣大ナリレモ或種ノ之カ障碍ト為

ル者アリ人々皆世事紛乱ノ中ニ生死シ其間ニ
ハ自家ノ危害ヲ堤防セント勤慎ヲ要スヘキ者
少ナカラサリキ是ヲ以テ心智ノ進動ハ此警戒
心ノ為メニ其一分ヲ減セラサル能ハサリシナ
リ然ルニ千七百年代ニ至リテハ見聞ニ觸ル、
百般ノ世事一モ心思ヲ感動シテ之カ畏敬ヲ要
スヘキ者アルナレ人心ハ社會ノ百事ヲ賤汚ナ
リトシテ只管之ヲ疾怨シ事物ノ改革ヲ以テ其
任トシ其自身ヲ見ルヤ一種ノ造物主ノ如ク憲
法ナリ意見ナリ風俗社會ヨリシテ人類ニ至ル

マテモ盡ク之ヲ創造セント要シ世事一トシテ
改革ヲ要セサル者ナキヲ信シタル者は是レ當時
人智ノ計較ノ大狀ナリ千七百年代以前ニ人心
ノ剛勇能ク是ノ如キ高点ニ達シタル者アリヤ
否

千七百年代ニ於テル一井区十四世ノ政治ノ餘
剩ト相對立スル權カハ上ノ如シ然ラハ則チ斯
ク不同ノ二カ專制推ト自由ノ間ニ一衝突ヲ生
スヘキハ勢ノ避ク可ラサル者タルハ疑ノ容ル
ヘキナレ故ニ英國革命乱ノ大主意タル自由查

察ト純乎王權政体トノ爭戰ハ再ヒ之ヲ佛國ニ演スヘキヤ明カナリ英佛二國ニ起レル專制自由二者ノ爭戰ノ成果ハ其差異大ニシテ又其差異ハ永續スヘキナリ然レニ其本源ヨリ察スレハ兩國ノ地位全ク相同シケレハ其事業ヲ講示スルニモ又必ス同法ヲ用フヘキナリ
又明史ヲ講説スヘキノ時限既ニ其終極ニ近ツキタレハ佛國ノ自由專制二者ノ衝突ヨリ發セル無數ノ效驗ヲ精示スルニ餘暇ナシ然レニ此ノ講説ヲ終ラントスルノ片時ニ於テ此大事件

ヨリシテ吾人ノ發見シタル事ノ最モ重大ニシテ且ツ最モ教訓トナルヘキ者ヲ取ツテ卿等ニ講示セント欲ス其ハ何事ソト云フニ凡ソ專制權ナル者ハ其名目ハ何タルモ其地方ハ何處ナルモ之ニ関セス必ス逃ルヘカラサルノ惡弊ヲ其中ニ包藏セサル能ハサルノ一事ナリ吾人既ニ「ル」井「ス」十四世ノ政府ハ單ニ專制政府タリシヲ以テ其廢滅ヲ招ケルヲ知レリ此專制政府ニ續キタル權力ハ人心ナリ千七百年代ノ人心ハ實ニ真正ノ君主ト稱スヘキ者ナリ是君主モ

亦均ク專制權ヲ握リ均シク自個ノ權力ニ依頼
 スルト過重ナリシヲ以テ亦均ク其傾覆ヲ招ケ
 リ然リ而シテ其進動ハ實ニ進動ノ善良高尚ニシ
 テ且ツ有益ナル者ナリ今余ヲシテ其進動上ニ
 褒貶ヲ下サシメハ余ハ顧慮スル所ナク直チニ
 大言セン『千七百年代ハ實ニ人類ノ為メニ至大
 ノ功業ヲ成シ至大ノ文明開化ヲ遂ケタルノ大
 時期ニシテ世界ノ歷史上諸大時限ノ一ニ位ス
 ヘキ者ナリ』ト余ヲシテ其行政官人心ヲ假稱ノ
 功罪ノ裁判セシメハ之カ功ヲ掲ケテ以テ賞賚

スル所アラントス然ク其功ハ是ク如ク大ナリ
 ト雖モ當時ノ人心ハ專制ヲ取用セルヲ以テ大
 ニ其功力ノ大成ニ害アリ即チ古事古説ノ今事
 今説ト相背ク者アレハ其是非ヲ真理ニ糾サス
 シテ偏ヘニ之ヲ憎疾ヒリ此憎疾心ト云フ者ハ
 實ニ過誤暴虐ヲ來タスノ本ナリ斯ク茲百年代
 千七百年代ノ末ニ於テ人心ノ過誤暴虐ノ過大ニシ
 テ吾人黙過セント欲スルモ敢テスル能ハサル
 ノ程度ニ至レル者ハ實ニ當時ノ人心ノ至重ノ
 権力ヲ有チタルヨリ自カラ蓋惑シテ是ノ如キ

ニ至レル者ナリ是ニ因テ之ヲ觀レハ吾人今日ノ人民タル者ハ須ク凡ソ權力ナル者ハ身内ト身外事ノ意トヲ論セス政府ト人民トヲ論セス推理家ト政事家トヲ問ハス又其權力ヲ用フルノ方法ハ何タルモ之ニ関セス都テ人為ノ權力ハ必ス天賦ノ不智不善ト弊害トヲ其中ニ包藏セサル能ハサルヲ知悉センヲ要ス人為ノ權力既ニ不智不善ト弊害トヲ免カル、能ハサル者ナレハ其權力ニハ限界ヲ立テ、敢テ是ヲ踰越セシメサランヲ肝要トス是ニ因テ之ヲ

断スルニ世ニ權力ヲ有スル各種ノ權利、各種ノ利益、各種ノ意見ヲシテ盡ク自由自在ニ存在ヒシノ國法ヲ以テ之カ安固ヲ保護スルノ政体ニ非サルヨリ外ハ其權力ヲ制限シテ敢テ他種ノ權力ヲ侵犯スルヲナカラシメ以テ真正ノ自由查察ヲシテ真正ノ利益幸福ヲ社會上ニ産出セシムル能ハサルナリ此真理ハ實ニ千七百年代ニ世權ノ專制者ト心權ノ專制者ト稱ス、ハキ両專制權間ニ發セル紛爭ヨリ發明スル所ノ者ナリ今既ニ余カ預約セル講説ノ結極ニ達シタリ

等定ノテ記得セシ此講説ノ初會ニ於テ余カ目
的ハ羅馬帝國覆滅ヨリシテ目今ニ至ル迄歐羅
巴文明進歩ノ概狀ヲ卿等ニ説明スルニアリシ
ヲ斯ク永年間ノ事業ヲ斯ク少時間ニ講説セル
ヲ以テ各種ノ大事業ヲ條擧スル能ハス其擧示
セル事業ト雖此之カ証左ヲ明示スヘキノ違ヲ
得ルニ由ナカリキ然レモ若シ余カ講説ヲシテ
能ク現今ノ社會ト改良解發シ来リタル諸大事
期ヲ卿等ニ指示スルヲ得セシメタラハ余カ
希望ハ達シタルナリ余倘ホ卿等ニ一言セント

欲ス初講ノ時文明ノ字義ヲ示シ且ツ文明ノ名
稱ヲ戴クヘキ事實ヲ講シ余カ意見ヲ以テスレ
ハ文明トハ心智ノ解發世事ノ改良ナルニ大本
ヨリ成立ス心智ノ解發トハ見識ト道義トノ進
歩ヲ云フ文明ノ心靈ニ屬シ内ニ藏スル者ナリ
世事ノ改良トハ政法ト人間交際トノ進歩ヲ云
フ文明ノ實事ニ屬シ外發スル者ナリト斷論シ
タリキ然ルニ今年ノ講説スル所ハ專ラ世事ノ
改良ニノミ屬シ未タ一言モ人心道義ノ進歩
ル意見ノ歴史即チ心智ノ解發上ニ説及ホサハ

リキ歳更リテ来年ノ講説ニハ專ラ佛蘭西ノ文
 明ヲ講セント欲ス佛蘭西ノ文明史ヲ講スルニ
 至ラハ佛國全社會ニ関スル者ノミナラス合セ
 テ一人一個ニ関スル者ヲ論シ憲法意見及ヒ思
 想ニ関スル各種ノ工夫等ヲ詳舉細論シテ以テ
 其終極スル所ハ吾人ノ住國ノ斯ク進歩シテ光
 輝赫灼タルヲ目今ノ如キヲ得タル所以ノ理
 ヲ精究セシメテ期ス古往将来佛國ハ吾人ノ熱
 愛ヲ要求スヘキノ權利ヲ有テルノ邦國ニ非^スヤ
 歐羅巴文明史卷之十四 大尾

明治九年九月廿七版權免許 明治十年六月廿音出版

静岡縣士族

翻譯人

永峯 秀樹

第一大區一小區有樂町
 二丁目二番地寄留

東京府平民

出版人

稻田 政吉

第一大區八小區
 銀座三丁目廿番地

